

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	伊賀神戸駅前周辺整備事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	04	都市計画費
		目	01	都市計画総務費
基本 施策	27 秩序の中にもぎわいのある都市空間をつくる	細目	344	社会資本整備総合交付金事業(地域活力基盤創造交付金事業)
		細々目	71	伊賀神戸駅前周辺整備事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	190700	担当者 氏名	松尾 卓哉
	名称	産業建設部 都市計画課		連絡先

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀神戸駅前周辺地域と住民	※対象件数
成果(どうする)	駅及び駅周辺の整備を行うことでバスなどの公共交通機関と鉄道とのアクセス向上と駅周辺の賑わいを創出する。	
根拠法令・要綱等	都市計画法	
開始年度	平成 22 年度	関連事業
終了年度	平成 25 年度	
H22 事業 内容	測量業務、設計業務、建物補償業務を行い、事業用地の地権者と買収交渉を行った。	
社会情勢 の変化等	平成25年度に完成予定の主要地方道上野名張線が完了すると、伊賀神戸駅の利用者の大半は、完成した県道から市道花之木古山神戸線を利用することが予想されるため、県道の完成に併せ、道路幅幅による歩道整備とバスの回転場及び駅前の整備を行う。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)	
1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	2車線片側歩道
4 総事業費	100,390 千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標	実績	目標	実績
			実績	目標	実績	目標

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
事業の進捗率		全体事業費に対する実施事業費の比率にすることにより、事業の進捗状況が把握できる。	%	目標	0	目標	8
				実績	0	実績	7
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H21 決算		H22 決算		H23 当初予算		H24 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	6,898		51,000		30,900			
	3,685		27,500		16,500			
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債	3,000		22,300		13,600		
	その他		0		0		0	
一般財源	0	213	1,200	800				
事業投入人件費(B)	人	0	1.0	人	7,200	1.0	人	7,200
フルコスト(A)+(B)		0	14,098		58,200		38,100	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○	伊賀神戸駅では、車両による送迎や駅周辺駐車場に駐車する利用者が多く、通勤、通学時間帯になれば歩行者、バス、送迎車両等の通過車両が混在し非常に危険な状態になっているため、また、県道地方道上野名張線の工事と併せて行うことにより更に事業効果が高まる。
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○	
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。 予算の繰越の有無 無 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 交差する県道上野名張線の事業進捗が遅延しているため、交差部の工事調整を行うため完了をH25とした。	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	清水 仁敏
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 通勤、通学時間帯になれば歩行者、バス、送迎車両等の通過車両が混在し非常に危険な状態になっているため、県道バイパスから駅までのアクセス道路とバス等の待避所の整備が望まれている。
現時点における課題、その他	駅前にロータリーを設置する検討を行ったが、地権者の理解は得られない状況である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	ロータリーに替わる案として、バスの回転場(待避場)の設置場所等を設置できるよう協議を進める。